

心のつながりシート



Made in Sakura の手作りマスクプロジェクト



新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う臨時休業期間中の学校活動です。本校は日頃から、「地域貢献」をテーマとした様々な学習活動を積極的に展開しているため、「大変な時だからこそ、地域の方々のために私たちにできることはないか。」と考え、「手作りマスク」の製作に取り組むこととしました。名付けて、「Made in Sakura の手作りマスクプロジェクト」です。

マスク作りは、家庭の事情により登校を継続している生徒と教職員が、まさに学校の総力を結集して取り組みました。仕上がったマスクには、これも生徒が手作りしたメッセージカードを添えてラッピングしました。一枚一枚、心を込めて作り上げた「Sakura ブランド」のオリジナルマスクの完成です。制作したマスクの総枚数は、2か月間で2,518枚にもなりました。

マスクの無料配布は、学校の最寄りの京王・小田急「永山駅」などで10回ほど行いました。毎回、200枚程度のマスクが10分ほどでなくなってしまうました。新聞や地元メディアで報道されたり、多くの市民の皆様からお礼のお手紙を頂戴したりなど、生徒も教職員も、大きな手応えと達成感を得ることができた活動となりました。

【マスク作りに励む生徒】



【完成したマスク】



【マスクを配布する教職員】



- ◆ マスクを受け取っていただいた方からは、「ありがとう。」「とても助かるよ。」「とてもステキ。」「頑張ってるね。」など、たくさんの励ましの御言葉を頂戴しました。市中ではマスクが品薄状態の時期だったので、涙を浮かべながら「手に入らなくて困っていた。本当に助かった。」と感謝して下さる方や、「寒い中、御苦労様。」と言って、温かい飲み物を差し入れて下さる方などもありました。
- ◆ 生徒たちからは、「自分にもできることがあると感じた。」「困っている人の役に立ててうれしい。」といった感想が聞かれました。短い言葉ですが、様々な思いが凝縮された一言です。生徒たちが、大きな手応えと達成感を感じていることは、その表情からよく分かりました。
- ◆ 教職員にとっても、「学校が積極的に社会に貢献する活動に取り組むことで、特別支援学校や障害のある子供たちへの理解が進む。」ということを実感した活動となりました。